

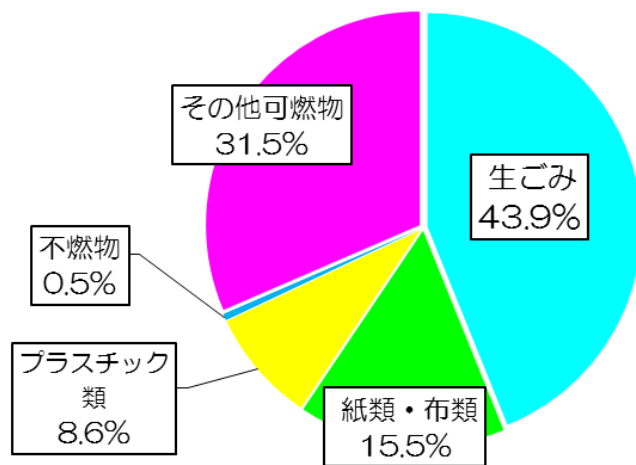
燃やせるごみの組成分析

ごみ質や分別状況を把握するために、定期的に燃やせるごみの組成分析調査を実施しています。



燃やせるごみの中に混入している資源やごみの状況を知ること、どのようにすれば燃やせるごみの減量につながるかを考えることができます。

平成 27 年度 家庭ごみ



組成分析の結果から

1. 生ごみ

燃やせるごみの約 40%が生ごみであり、その生ごみの 70%が水分です。しっかり水切りすることで燃やせるごみの減量につながります。水切りだけでなく、生ごみをなるべく出さないように気をつけることが大切です。

生ごみは
しっかり水切り

2. 紙類・布類

燃やせるごみの中に含まれる紙類については、以前より減少傾向にありますが、まだ資源が多く混入しています。紙類・布類をきちんと分別することで燃やせるごみはまだ減らすことができます。

紙類・布類は種類ごとに場所を
決めておくと分別しやすくなるよ

3. プラスチック類

プラスチック類の混入も以前に比べて減少していますが、分別してきれいにしてから出すことで資源として生まれ変わります。

汚れのひどいものは「燃やせるごみ」として出してください。

プラスチックはきれいに
してから出してね!

4. 不燃物

少量ですが、びんや缶などを含む不燃物が混入しています。きちんと分別して正しい収集日に正しい出し方で出してください。

びん・缶は容器で出してね!

きちんと分別・正しい出し方で燃やせるごみ袋の「ワンサイズダウン↓」を目指しましょう

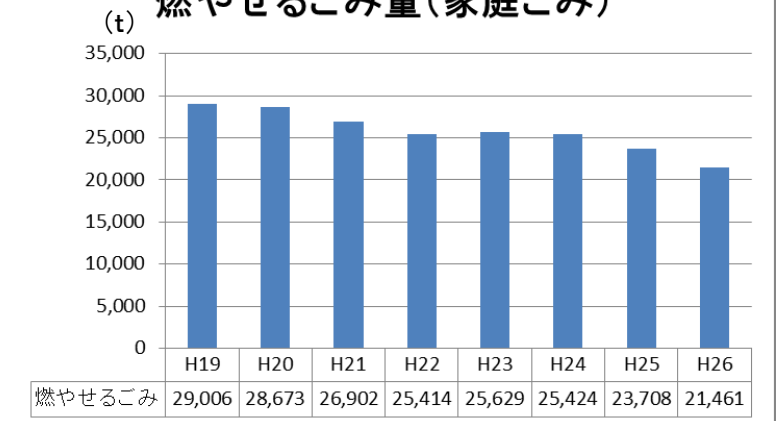
燃やせるごみの排出量

家庭の燃やせるごみは平成 26 年度は平成 19 年度比で約 26%の燃やせるごみ（家庭ごみ）が減量され、事業系を含む燃やせるごみ全体では約 29%の減量となっています。これは市民の皆さんのご理解とご協力によるものです。誠にありがとうございます。

さらに「ごみ減量とリサイクル」を推進していくためには、市民、事業者、市がそれぞれの役割に基づき、協働で取り組む必要があります。

引き続き、ご協力をお願いします。

燃やせるごみ量(家庭ごみ)



みんなで、減らそう、燃やせるごみ!

注目

地域清掃のボランティア

～第八小学校の取り組み～

第八小学校では、立川市に愛着をもち、貢献できる児童を育てるというねらいから体験学習の一環としてごみ拾いのボランティアを行っています。

「きれいな場所はよごれない」という言葉を合言葉に、児童達が学校周辺を清掃し、その姿を見て地域全体がごみを捨てない、ごみを減らそうという意識向上につながるようにとのこと。



みんな
がんばってるよ!

ドギーバッグ



「ドギーバッグ」という言葉を聞いたことはありませんか？

ドギーバッグとは、外食した際に食べ切れなかった料理を持ち帰るための容器のこと。アメリカなどで、「犬のエサにする」という口実で持って帰ったのが語源だという。長引く不況の影響とエコの観点から、日本でも昨年秋ごろから、このドギーバッグが注目を集めています。

でも大切なことは、食べられる量の料理を注文をして、残さず全部食べ切ることなのではないでしょうか。